

研修医からのメッセージ

～ 当院で初期研修医を希望している皆さまへ ～

2年間の初期研修で何を学ぶのか。

それは各人で異なる点多々ありますが、当院で研修を積む先生の多くに、ある共通の想いがあると思います。

それは、「自分が実際に『主治医』として患者さんを診て考えられるようにする」ということです。

当院では、レジデントが主体的に考え、行動し、率先して動くことが求められます。患者さんやその家族へのIC、多職種、他病院との連携もレジデントが第一線となって経験することとなります。もちろん、その過程で指導医の丁寧な指導を受けるわけですが、そうした環境が整っているのは、症例数・疾患数ともに多岐に渡っており、上級医の数に対して研修医が少ないこと、各科の専門性が非常に高いこと、教育に熱心な指導医が多いことが寄与しているからであると考えられます。「熱意がある」「事前に勉強したり、シミュレーションをしっかりと行い準備ができています」と判断されれば、手技も数多く経験ができる環境にあり、その意味で、症例数に対する研修医の数が少ない点もよい環境といえます。また病院全体としても「研修医」としてではなく、「担当医」として扱われ、チームの一員として働く文化があります。こうした様々な相乗効果でやる気が引き出され、自然と主体的に率先して動けるようになるのではと考えます。

そして何よりも、

「目の前の患者さんと誠心誠意向き合うことの大切さ」、そのためには「日々の研鑽を惜しまないこと」を自然と身につけることができる環境が当院にはあります。

その心構えは簡単には得難く、しかし、診療を行う上で何よりも一番大切なものだと思います。

ぜひ一度見学に来て頂き、この病院の「熱意」を感じてもらえればと思います。皆様の来院を心よりお待ちしております。

2017年度初期研修医（外科系）松藤 寛

～ 当院で初期研修医を希望している皆さまへ ～

初めまして、内科プログラム1年目の福井悠太と申します。

私がこのNTT東日本関東病院を志望した一番の理由は、先輩方の働く姿がとても魅力的だったからです。研修医という立場でありながら責任感を持って主体的に考え、行動し、自分の分からないことは積極

的に調べたり上級委の先生に聞いたりして解決していこうとする姿を拝見しました。また、研修医同士でお互いに知らないことを教えあったり、困ったときには助け合ったりするといった切磋琢磨できる雰囲気があり、そのような環境で自分も向上心を持って働きたいと思いました。

この病院で働き始めて数か月になりますが、本当に様々なことを学ぶ毎日です。患者さんとの接し方、日々の業務、手技、検査や治療の考え方など、2年目の先生方はもちろん上級委の先生方も優しく教えてくださります。まだまだ目標とする先輩方には程遠いですが、そのような恵まれた環境に感謝しながら、楽しくいきいきと働くことができています。

医師としての大事な土台を築くのにとっても良い病院だと実感しています。

一度見学に来て、この病院で働く人たちの雰囲気を感じてみてください。
皆さんと一緒に研修できる日を楽しみにしています。

2018年度初期研修医（内科系） 福井 悠太

NTT 東日本関東病院での研修について

NTT 東日本関東病院の初期研修医は、2年間研修を積むことで「自立した医師になること」を追求すべきと考えております。専門知識を扱う正確性、思考の柔軟性、チーム医療をはじめとした社会性を身につけることが常に求められ、これらを重視し習得していくことで自立した医師への道が開けると考え、日々主体的に診療に携わっております。

当院では、研修医に対して熱心にご教授頂ける専門性の高い指導医に恵まれている上、同期と切磋琢磨し研鑽を積むことで、専門的かつ最新の知識を正確にインプットし実臨床にアウトプットすることが可能です。また、救急外来での当直やスーパーローテーションにより様々な科を廻ることで、多彩な症例に対する柔軟な対応力を身につけることができます。そしてコメディカルの方々や他科医師と連携しチームとして診療に携わり、患者様ご本人やご家族、他病院やヘルパーなど患者様を囲む多岐に渡る職種の方と共に最良の医療を提供する一因として働ける環境が整っており、医師として必要十分な社会性を育むことができます。

我々はこのような環境の下で、各々が思う理想の医師へと少しでも近づけるよう常に尽力しております。見学にいらした際には是非、当院の魅力である全エネルギーを最良の診療に注ぐ姿勢とそれに参加する初期研修医の貪欲さと主体性を体感していただきたいと思っております。

2019年度初期研修医（外科） 勝谷 祐介